

いびがわ パパママ子育てフェスタ

1月29日(日) 揖斐川町地域交流センター「はなもも」で、いびがわパパママ子育てフェスタが開催されました。

3回目の開催となるこのイベントは、地域で子育てをする仲間の輪を広げる目的で行われています。

また、町内の先輩ママ・パパで結成された「いびがわ子育て応援団」が企画から運営まで参加しています。

森のようちえんでは、葉っぱの感触を五感を使って味わってもらうために葉っぱのプールを作りました。子どもたちは葉っぱの掛け合いをしたり、隠れたりと大喜びでした。

このほかにお菓子作りや親子でフラダンス、パパママのしゃべり場など家族で楽しみながら学べ、参加した家族からは笑顔があふれていました。



▲葉っぱのプールで楽しく遊ぶ

揖斐高等学校で模擬選挙



▲緊張感を持って投票を行う生徒たち

2月2日(木)、揖斐高等学校で、2年生徒138人を対象に模擬選挙が行われました。

これは、県の選挙管理委員会が行っているもので、将来、投票権を持つ高校生が選挙の仕組みを理解し、投票することの大切さを知るために行われています。

生徒たちは、参議院議員選挙を想定した模擬選挙を行い、3人の仮想の立候補者の模擬演説を聞いた後、候補者の名前を書く選挙区投票と各党の名前を書く比例代表の投票をしました。

投票、投票立会人、開票の作業も全て、生徒自身で行い、実際の選挙に近い雰囲気の中で、生徒たちは身をもって、自分で考えて投票することの重要さを学びました。

叙勲(旭日単光章) 受章

平成28年8月26日に亡くなられた所 登喜雄さん(谷汲高科)が叙勲を受章し、富田町長よりご家族へ伝達が行われました。

■旭日単光章

所 登喜雄さん(谷汲高科)

所さんは、平成9年9月から町村合併を経て、平成28年8月26日までの18年11か月にわたり、議会議員として在職され、議長をはじめ数々の役職を歴任されました。卓越した手腕と強い政治信念をもって、民主的な地方自治の振興発展に尽くされ、特に教育や福祉施策に積極的に取り組み、小学校や幼児園の統合やデイサービスセンターの整備などに多大な貢献をされました。

これら生前の功績が認められ、今回の受章となりました。この多大な功績に対し、敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りします。



▲ご家族への伝達

総務大臣感謝状受賞

12月26日(月)に、総務大臣感謝状を受賞した揖斐川町消防団が富田町長に受賞報告をしました。

■総務大臣感謝状

揖斐川町消防団



▲野原消防団長(左)

この賞は、全国の消防団を対象に、消防団の規模の拡大や、消防団員数の確保に大きく貢献した消防団に対して贈られるものです。

今年度、岐阜県内で感謝状を受けたのは2団体のみで、揖斐川町消防団は消防団OBを活用した機能別消防団員の導入などによって、団員を65人増加させ、地域防災力の強化に取り組んでいるという功績を称えられ、今回の受賞となりました。

夢の教室

先生から夢の大切さを学ぶ

1月11日(水)から13日(金)まで、町立小学校5年生を対象とした「夢の教室」が開催されました。

この事業は、日本サッカー協会の「心のプロジェクト」を受けて、実施したものです。11日(水)と12日(木)には、大和小、小島小、揖斐小を会場に元プロサッカー選手の波戸康広さんを、13日(金)には清水小、北方小を会場に、サッカー元日本代表の川上直子さんを「夢先生」として迎えました。仲間と協力する大切さを学ぶゲームで心と体をほぐした後、夢を叶えるまでの苦労や努力、喜びについて話を聞きました。夢に向かってあきらめないことを学んだ後は、「夢シート」に各自の夢を記入しました。子どもたちは恥ずかしそうに、しかし、目を輝かせながら自分の夢を書いていました。



▲波戸先生(中央)と一緒に元気に運動(揖斐小)

揖斐川上流に 実のなる木を植えよう大作戦



▲大きく育つよう、願いをこめて植えました

揖斐川上流に「実のなる木を植えよう大作戦」は、特定非営利活動法人「揖斐自然環境レンジャー」が主体となり、平成13年から継続的に水源地域である徳山ダム上流等に野生生物の餌となる実のなる木を植栽しております。

多くの地域の人たちに参加をしていただき、コナラ・オニグルミ・トチノキなど約200本の植樹や、種植えを行いました。

たくさんの子供たちも参加し、自然とのふれあいや楽しさを学習することができました。

なお、この事業は清流の国ぎふ森林・環境税(本誌18ページ)を活用しています。

飛騨美濃特産名人に認定

優れた生産技術や知識を持つ農業者を県が認定する「飛騨美濃特産名人」に、茶生産農家の太田恒雄さん(桂)が選ばれました。太田さんは機械化による省力化を積極的に推進し、県下初となるJGAP(食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証)の取得、需要増が見込まれるてん茶ライの整備に桂茶生産組合の組合長として貢献、後継者の育成のために、若手従業員の雇用体制など、先進的な取組みに尽力している点などが評価されました。

1月20日(金)の認定祝賀会で富田町長、JAいび川の堀尾組合長ほか関係者に報告し、「これからも技術指導に力を入れていきたい」と話していました。



▲名人に選ばれた太田さん(前列中央)

(一社)養老線管理機構の設立

養老鉄道の存続に関しては、平成26年から検討が進められてきました。沿線3市4町(大垣市、桑名市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町)は近畿日本鉄道(株)・養老鉄道(株)と、平成28年3月に事業形態変更に関する基本合意をし、5月には基本的な方針を定めた確認書を交わして、近畿日本鉄道(株)に代わって鉄道施設を保有・管理する第三種鉄道事業者となることを目的とした新法人の設立について協議を続けてきました。

平成29年2月1日(水)、沿線3市4町を構成員とする新法人「一般社団法人 養老線管理機構」が設立され、大垣市役所内に事務所が設置されました。今後、地域公共交通網形成計画や鉄道事業再構築実施計画の策定等に参加し、平成29年中を目途に機構が鉄道施設を保有・管理し、運行は引き続き養老鉄道(株)が行う事業形態へ移行する予定です。

なお、揖斐駅北側には養老鉄道利用者用の町営無料駐車場(51区画)がございす。ぜひご利用ください。



▲揖斐駅北側駐車場の場所

〔第19回中学生海外派遣事業〕
セントジョージ市との交流

1月19日(木) から27日(金) までの9日間、交流都市であるアメリカセントジョージ市で、町内の代表中学生18人による派遣研修が実施されました。

研修では地元の3中学校(ミドルスクール)で授業への参加や、お互いの町の良さの紹介、朝食づくりやゲーム等の活動を通して、交流を深めました。また、宿泊や週末の活動は現地のホストファミリーにお世話になり、温かなおもてなしを受け、全員が安心して過ごしました。

研修中、行く先々でお礼を伝えると「揖斐川町の皆さんが、私たちに親切にしてくれたからです」と言われ、これまでの交流の深さを実感することができました。帰国した生徒たちは「研修で学んだことを今後の生活に生かしたい」と話しています。



▲ザイオン国立公園での集合写真

第9回揖斐川町
特別支援教育フォーラム



▲障がい児の親としての気持ちも話した都竹さん

2月4日(土)、揖斐川町谷汲サンサンホールで特別支援教育フォーラムが開催されました。

今年で9回目のフォーラムには、町内外の保護者や療育、特別支援に関わる機関の職員など162人が参加しました。

今年は、揖斐川町における特別支援教育の体制と現状についての報告の後、飛騨市長の都竹淳也さんによる講演会が行われました。

自身の体験をきっかけとして、障がいがある人とその家族を支援する体制を作ってきた都竹さんは、講演の中で、「障がいは、不慮の事故などで、誰もが持つ可能性があるものだから、障がいがある人を社会で支えていくことが大事だと考えます」と話し、福祉や医療分野などさまざまな立場が連携する体制を紹介しました。

講演の後は、意見交換会が行われ、参加者が思いを共有していました。

中学生教育委員会
学校生活と授業の向上のために

1月6日(金)、中学生教育委員会が揖斐川町役場で行われました。

この取組は、より良い学校生活のためにどうするべきかを各校の代表が話し合うもので、町内4中学校の1、2年生16人が参加しました。

生徒たちは各校の取組の成果や課題を確認し合った後に、町教育委員会に対して、質問や提言を行いました。

また、新年度に取り組む課題についても協議し、本年度と同じく「いつでもどこでも だれにでも」をメインテーマとする「思いやりのある行動をしよう」「あいさつをする心を育もう」の2つを生徒会サミット宣言として掲げることを決めました。

どの生徒も真剣な表情で、今年度の取組を来年度に向けて、どのように充実させていくのかについて、深く考えていました。



▲積極的に意見を出し合いました

福は内!
節分厄払い行事



▲勢いよく福豆がまかれました

2月3日(金)、谷汲山華厳寺で、谷汲観光協会主催の節分厄払い行事が行われました。

毎年恒例のこの催しには平日にもかかわらず、約6000人の参拝客が訪れ、豆まきに参加しました。

華厳寺本堂で御祈祷が行われた後、本堂と高さ約4メートルの赤鬼が設置された仁王門の2か所、「福は内!」などの威勢のいい掛け声とともに、福豆がまかれました。参拝客は、福をつかみ取ろうと「こっちにも豆をまいて」などとアピールし、必死に手を伸ばしていました。

また、境内では、甘酒の無料サービスも行われ、甘酒を飲みながら、ほっと一息つく参拝者の姿もありました。